



# つながり



## 「公民館活動活性化ステップアップセミナー」報告

### ～これから求められる公民館の役割・課題～

12月2日(水)南予地方局八幡浜支局で、「公民館活動活性化ステップアップセミナー」が開催され、管内公民館関係者・学校関係者約70名が参加しました。

講演は、広島市安公民館社会教育主事・為政久雄氏の「このまちにくらしたいプロジェクト～中学生がつくる30年後の未来のために今できること～」。中学生の発案からはじまった公園に遊び場をつくる活動に、地域住民が主体的に関わっていく様子を話していただきました。住民の学習発表の場を公民館の中から公園に移すことで、遊びに来た子どもたち・保護者と世代を越えた交流ができたということでした。また、毎年続けることで協力してもらう団体も増え、新たなつながりが生まれていったそうです。持続可能な地域づくりのために、公民館活動では、

- ・「自発性」＝住民の「やりたい」からはじまっている
- ・「創造性」＝まちに「おもしろい」があふれている
- ・「多様性」＝いろいろなわずらわしい(世代間のギャップ)が交じり合っている

という要素を大切にしたいとのことでした。最後に、コロナ禍におけるオンラインでの事業のアイデアも紹介していただきました。

事例発表・研究協議では、二つの公民館が事例を発表しました。西予市高川公民館からは、青少年世代との交流による地域の活性化、大洲市豊茂公民館からは外部団体との連携による地域課題の解決について発表がありました。少子化や高齢化の進む南予地域の共通した課題解決について意見交換が行われました。



まちづくりプロジェクト、持続可能な地域づくり、とても参考になる講演でした。私の勤める地区でも高齢化が急速に進んでいるので、まず、住民のやりたいの声を上げるためにできることを考えたいと思います。

今後の公民館活動にすごく役立つ内容で、参考になった。自分達では取り組んでいない活動もしており、とてもうらやましく、すごいと感じた。もっといろいろな世代が関わられるような活動ができればと思う。

地域の公民館の事例発表は、身近な話題で地元の公民館に置き換えて連想することができ、参考になった。

子どもたちが多くの意見を出すことで、大人だけでは考えられないイベントになると感じた。大人だけでなく、子どもの意見を多く取り入れたい。

社会に開かれた教育課程が叫ばれている学校現場は、公民館との協働によって未来が開かれる道があると確信しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催時期を6月から12月に延期し、また、規模縮小、時間短縮での開催となりました。来年度は、オンラインの活用など新しい公民館活動の在り方について研修を深めたいと考えています。